

〈巻頭言〉

「特別支援教育ほっかいどう」第28号の発刊にあたり

北海道立特別支援教育センター
所長 今井 章 文



本年8月に文部科学省から告示された「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」では、教員に共通的に求められる資質の具体的内容として、特別な配慮や支援を必要とする子供への対応、ICTや情報・教育データの利活用などが示され、教員には、技術の発達や新たなニーズなど特別支援教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、子供一人一人の学びを最大限に引き出し、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たすことが求められています。

その一方で、同省は、教員が自らの授業を磨きつつ、日々の生活の質や教職人生を豊かにして人間性や創造性を高め、効果的な教育活動を行えるようになることを目的とした「働き方改革」を進めており、各学校は、教員が置かれる環境が大きく変化していることを踏まえて日々の取組を推進していくことが必要となります。

例年、当センターでは、本道の特別支援教育のより一層の理解と推進に向け、道内の特別支援教育における先進的な取組を発信するために本誌を発行しております。本号では、先に述べた学校や教員に求められている「働き方改革」、「ICT活用」及び「教員の専門性向上」の3つの内容について特集を組みました。

1つ目の「働き方改革」としては、道教委が作成した「北海道の学校における働き方改革手引『Road』」を活用し、働き方改革の実現に向けた取組が各学校で推進されていることを踏まえ、本号①において北海道北見支援学校の独自の取組である「e-Smileプロジェクト」について紹介し、本道の特別支援学校における「働き方改革」の推進に向けて参考となる記事を掲載しています。

2つ目の「ICT活用」としては、全ての教員がICTの活用の意義を理解し、授業や校務等にICTを効果的に活用するとともに、児童生徒等の情報活用能力（情報モラル等を含む。）を育成するために授業実践等を行うことや、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を図るため、児童生徒等の学習の改善に向け、教育データを適切に活用するよう推進されていることを踏まえ、本号②において、北海道室蘭養護学校及び千歳市立北進小中学校におけるICTを活用した授業改善の実践事例について紹介し、特別支援教育におけるICT活用の充実に向けて参考となる記事を掲載しています。

3つ目の「教員の専門性向上」としては、「新たな教師の学びの姿」の実現に向け、高度な専門職である教員が、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努める義務を負っており、学び続ける存在であることが社会から期待されていることを踏まえ、本号③において、筑波大学特別支援教育連携推進グループ「現職教員研修『専門性向上プログラム』」の研究成果と課題等を紹介し、本道の特別支援教育を担う人材育成に向けて参考となる記事を掲載しています。

「令和の日本型学校教育」の実現に向け、先生方一人一人が、教職人生を通じて探求心を持ちつつ自立的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、自らの専門性を高め、資質の向上を図ることが大切となります。

また、一人一人の教員の力だけでは学校現場が抱える多くの課題を解決することは困難であることを踏まえ、多様な専門性を有する質の高い教員集団を形成し、組織の力で一人一人の子供と向き合っていくことが必要となります。

本号を皆さんの勤務する学校における取組を振り返る契機にさせていただき、今後の実践の充実にお役立ていただければ幸いです。

なお、本号からの新たな取組として、全ての記事を冊子版ではなく電子版により当センターのWebページに特集ごとに順次、掲載します。又、一部の取組等について、関連する学校の管理職員や先生方へのインタビュー動画を、当センターの「特別支援教育YouTubeチャンネル」で公開いたしますので、併せて御覧ください。